

# 古河電工グループが取り組む、「持続可能な社会」の実現

当社は、「資源循環型社会」の実現に向けて、環境負荷を低減し資源生産性を高め、持続可能な社会を目指す活動に精力的に取り組む、その結果を社会に公開してまいりました。

2003年度は金融危機やデフレ懸念の後退により、国内の景気にも全体的には漸く明るさが見えてきました。一方、当社の経営環境は一昨年より大幅に改善されたものの、国内外のIT投資拡大が進まず、残念ながら未だ厳しいものがあります。しかしながら、持続可能な社会を実現するための環境保全の諸問題解決は、経営の重要課題の一つとして位置付け、当社ばかりでなく関連するグループ各社で協調して取り組んでおります。また、具体的な活動の目標は、到達すべき水準と時期を明確に掲げています。

古河電工グループは、情報通信、電力エネルギー、銅・アルミ材料、および電子・実装電子機器などの基幹事業を行っています。古くから、銅・アルミのリサイクルやプラスチックの回収利用を積極的に進めるとともに環境調和製品の開発にも力を入れております。特に2003年度からは環境調和型商品をECOLINKと名付け、ハロゲンや鉛フリーの環境配慮型光ケーブル、ケーブル廃材を再利用した新しいタイプのケーブルトラフおよび貴金属使用量を最少化したストライプめっき条などの新製品を開発しました。引き続き高度な技術を駆使したリサイクル技術と環境調和製品の開発により、地球環境保全と資源保護に貢献してまいります。

また、グリーン調達の推進に当っては、お客様からの調査要望や工場監査に応え、信頼を得ることができたと考えております。一方で、グリーン性が確保された製品を購入するため、全社共通の基準を明瞭にしました。

環境保全の分野での重要な目標であったISO14001認証取得については、古河電工の全生産拠点である11事業所が2002年度に取得完了し、環境連結経営に参加している関連会社では、2003年度までに40社中33社が取得しています。引き続き全社取得を目指し、環境保全データの共有、具体的アクションについての情報交換、あるいは勉強会の開催などを通して活性化を図っています。

環境保全に関する活動は、現場主義で進めてまいりました。しかし最近では顧客や地域コミュニティなど社会から、企業に対しより広い範囲で様々な要望が出るようになりました。これら諸問題の改善にも取り組んでまいりましたが、今後も一層強化してまいります。

今年も2003年度の活動をまとめた環境報告書を作成しました。ご一読のうえ、当社とそのグループの活動にご理解をいただき、皆様より忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長

石原 廣司